

[講演要旨]

徳島県の太平洋海岸を襲った宝永 (1707), および

安政南海地震(1854)の津波の高さ

都司嘉宣<sup>1</sup>・岩瀬浩之<sup>2</sup>・鈴木隆宏<sup>3</sup>

<sup>1</sup>地震津波防災戦略研究所, <sup>2</sup>漁港漁場漁村総合研究所, <sup>3</sup>(株)エコー

§ 1. 徳島県太平洋海岸を襲った宝永地震(1707), および安政南海地震の津波

徳島県の太平洋側海岸線は、江戸期には宝永地震(1707)および安政南海地震(1854)の二度の大きな津波に襲われている。これらの津波による浸水高さについては、すでに徳島大学の村上ら(1990, 1996)によって大きな成果が得られている。本研究では、この村上らの研究以後に検出された資料や現地調査によって、新たに津波浸水高さのデータを付け加えることができたので、村上らの成果と併せて徳島県の太平洋海岸を襲った二度の津波の高さについて概観することにする。

§ 2. 安政元年 11 月 5 日 (1854 XII 24) 南海津波

安政南海地震(1854)による津波の高さの分布を図1に示す。白丸(○)の点はすでに村上らによって調査が行われた地点である。黒丸(●)の点が今回の研究調査によって新たにデータが得られた地点である。美波町由岐、田井、木岐、および海陽町浅川、穴喰などはすでに村上らによって詳細な成果が得られていたが、今回の調査によって美波町日和佐、牟岐町、海陽町鞆浦、および阿佐国境付近での津波の高さが解明された。測定信頼度の高い浸水高の最高値は牟岐町内妻での 8.8m であった。

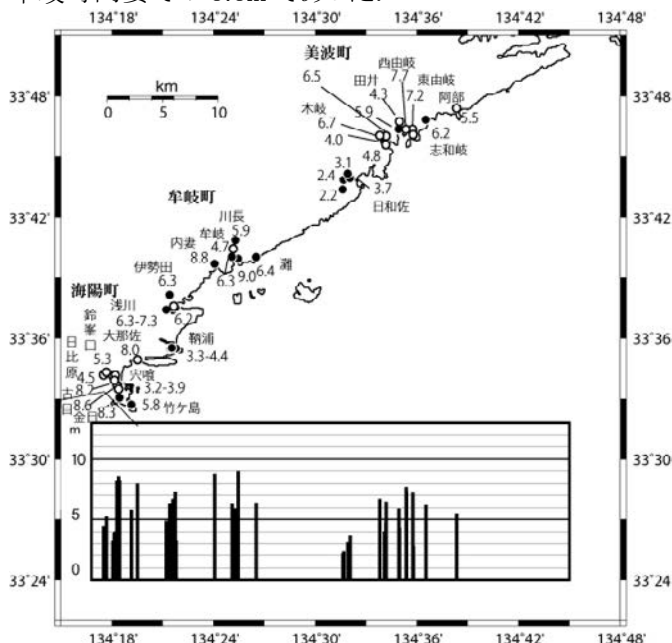


図1 安政南海地震(1854)の津波の高さ分布

§ 3. 宝永 4 年 10 月 4 日 (1707 X 28) 地震の津波

宝永4年(1707)地震は南海地震と東海地震が連動して起きた地震であることが知られている。徳島県太平洋海岸での津波の高さを図2に示す。高知県では、土佐市青龍寺、須崎市下郷、安和、中土佐町志和などで津波高が 15m を超えていて、安政地震の津波(最高点は須崎市での9m)とは大差があったことが知られているが(都司ら, 2013)。宝永地震(1707)の津波の高さは安政南海地震のそれと大差はない。浸水水高の最高点は東牟岐八幡宮の 10.0m であった。

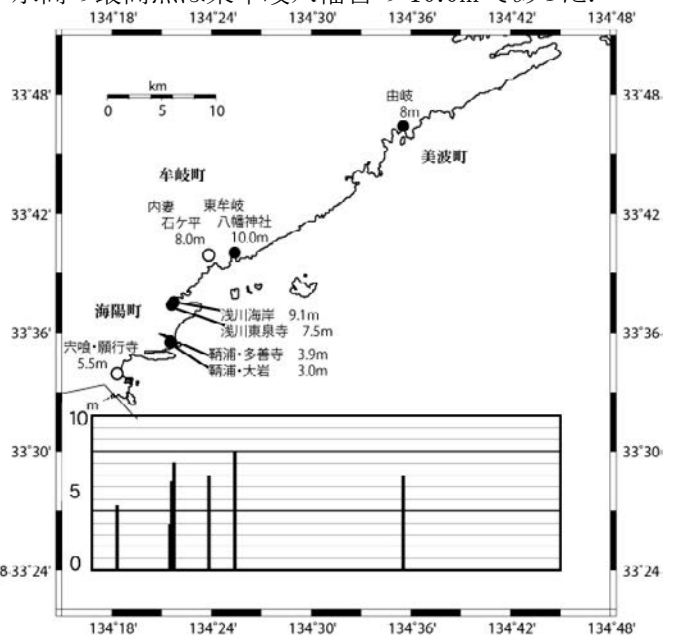


図2 宝永地震(1707)の津波の高さ分布

参考文献

村上仁士・細井由彦・島田富美男, 1990, 徳島の津波, 歴史地震, 6, 97-107  
村上仁士・島田富美男・伊藤禎彦・山本尚明・石塚淳一, 1996, 四国における歴史津波(1605 慶長・1707 宝永・1854 安政)の津波高の再検討, 自然災害科学, 15-1, 39-52  
都司嘉宣・今井健太郎・今村文彦, 2013, 『谷陵記』の記載に基づく宝永地震津波(1707)の高知県における津波浸水高, 津波工学研究報告, 30, 143-158